

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201412		
法人名	はまなす介護センター(株)		
事業所名	はまなす介護センター光星		
所在地	札幌市東区北13条東13丁目2番3号		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosi?informationPublic.do?JCD=0170201412&S-CD=320&PCD=01>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活が穏やかに過ごせますように、転倒などの事故がない様に見守りを中心としたお手伝いをさせて頂いております。ベット上で過ごされる時間の多い入居者様も車イスに移乗して食事、おやつ、レクリエーション等には、他の入居者様と一緒に過ごして頂けるようにしております。お誕生会にはご本人の希望を十分取り入れて、満足して頂けるようにしております。ご本人の希望を伝えるのが難しい入居者様には故郷の郷土料理を取り入れた食事や、お弁当、料理等を手作りし、楽しまれるようにしております。又、7月のいちご狩りには家族様にも参加して頂き交流を深めております。8月にはユニット全体で夏祭りを開催し、入居者様と一緒におでん・たこやき・焼きそば・フライドポテト等を作り、町内会の方々や食べたり飲んだり、ゲーム等で交流を深めて頂きました。町内会の行事にも参加させて頂き、地域の方々との交流の機会が多く持てるように努力しています。又、出来る限り散歩などにも出掛けられるようにしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地下鉄駅及び商店街が最寄りにある住宅街に位置しており、四階建てで一階が事務室、2階から4階がそれぞれ1ユニットで計3ユニットのグループホームである。市内中心部なため、交通も便利で、近隣の方の他、道内遠方からの来訪者もあり、馴染みの人との交流の支援を大切にしている。事業所として「安心安全な介護を目指していこう」を今年度の理念とし、毎日の生活が穏やかに過ごせるよう、転倒などの事故がないように見守りを中心としたケアの実践を行っている。町内会のお祭りやホーム主催の夏祭りなど地域の方々との交流も多く、いちご狩りなど家族と一緒に参加する行事も定期的であり、利用者や家族の楽しみとなっている。また、職員もチームワークがよく、明るく、雰囲気の良い職場環境で、利用者の居心地のよい住まいづくりに日々取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「しあわせになる」という事業所理念と、ケア理念を、全体会議にて職員全員で共有し、利用者様、家族様の信頼を築けるようケア実践に努めている。	事業所理念の「しあわせになる」とケア理念の「安心、安全な介護を目指していこう」を事業所内に掲示、職員全員で共有し、日々のケア業務を実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ捨てや散歩等の挨拶は欠かさず行っている。また、町内会のお祭りに参加したり、ホームの夏祭りには参加して頂いている。又、冬場には近所の方々と除雪を行っている。	町内会には事業所として加入しており、町内会のお祭りなどの行事には職員と参加し、またホーム主催の夏祭りには町内の方に参加いただくなど地域との交流を行っている。	町内会など地域との交流を行っているが、町内会行事などに計画的に参画するなどの積極的な交流により、今迄以上の地域との関係構築を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちに向けての勉強会は開いていないが、運営推進会議では町内会の人たちに取り組んでいる内容を話している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している運営推進会議では、利用者様の近況、生活状況、サービス状況、災害対策、食中毒対策などを議題に取り上げており、その中で家族様より出された要望・意見等を今後のサービスにつなげられる様取り組んでいる。	家族や地域包括センター職員・民生委員などの参加により、利用者・家族の要望やサービス状況などについての意見を検討してサービスの向上に取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の管理者会議に出席し、情報を収集し連携に努めている。	年3回の市や区の管理者会議に出席し事業所の実情報告やケアサービスの情報収集など定期的に行い、連携に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束にあたるのか、全体会議等で具体的に話し合う機会を作っており、拘束しないケアに取り組んでいる。日中玄関の施錠は行っていないが、夜間は防犯のため施錠している。家族様が夜間面会に来られた時は、直に対応できるようにしている。	身体拘束をしないケアの実践は、年1回の全体会議で具体的な検討や新任の場合は外部研修会へ参加するなどして取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待の具体例や、日々の生活の中で誤解されやすい言葉等使っていないか話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で議題として取り上げ、入居者様だけでなく、周りにいらっしゃる高齢者にも目を配れる様、話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に入居要件、支援できる事を十分に説明し、契約時には不安や疑問点等をたずね、理解して頂ける様努め、安心して入居して頂ける様にしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様の不満や意見・苦情を受け付ける意見箱を各ユニット、一階玄関に設置し、苦情受付機関等の掲示を行っている。又、運営推進会議にて気軽に要望や意見を出して頂ける様な雰囲気を心がけ、運営に反映できる様努力している。	運営に関する利用者・家族の意見の反映については、一階玄関と各ユニットに意見箱を設置しており、要望や意見等があった場合は、運営推進会議にて検討し、運営に反映している。また、家族の意見を直接頂いたときは、朝の申し送りで確認し共有している。	利用者や家族の意見を事業所の運営に反映し、サービスの向上に役立てているが、家族会などを設置して、積極的に利用者や家族の意見を把握し、さらなるケアサービスの向上に期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り、カンファレンスで意見を出し合い、話し合っている。	人事考課の面談は定期的に年1回行っており、管理者による職員面談は随時行い職員の意見を聞き運営に反映している。また、必要に応じて代表者との面談も行い課題を解決している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して職員の状況を把握しており、給与水準等に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議で勉強会をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修会等で他と交流はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には施設内見学、面談を行い、不安な事や要望等を聞いている。安心して入居できる様十分な話し合いをし、関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談していただける様な環境や話を伺う姿勢を考えながら、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から、他の施設や機関が適していると見極めた時には、各施設や機関を説明し情報提供をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る事は行き、感謝の言葉を伝え、協力し支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には毎月のお便りで日々の状況を伝えたり、行事に参加して頂いたり、受診の付き添いや外出の支援をして頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの病院に行ける様、家族様に協力して頂いたり、電話・面会の時間も自由に行っている。	近所の馴染みの友人・知人の来訪や週2回訪れる方もおり、馴染みの人との関係が途切れないように交流を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の日々の行動に気を配って、職員が間に入り、仲良くいられる様支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談がある時は、いつでも連絡をされる様伝え、相談・支援をする様努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情・会話の中から思いや意向をくみ取り、希望に添う様努めている。	日常生活の関わりの中で、行動や表情と会話などから思いや意向を汲み取り、管理者から職員へ申し送りで伝達し共有してケアに活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から話を聞いたり、今まで利用していたサービス機関から情報をもらい、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、一人ひとりの生活リズムを把握し、変化があれば申し送り等で情報を共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを開き、職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。	介護計画はユニットごとに、家族の意見を面談または電話で聞き取り、職員で検討して、家族の意見を反映した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は記録に残し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせ、出来る範囲で柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の店に買い物に出かけたりしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様と家族様と相談し決めている。また、協力医療機関の往診も受けられる様支援している。	かかりつけ医の受診の支援は、その時々によるが、家族又は職員が同行し受診支援している。その際の受診内容は記録簿に記録し、家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来ている看護職員に利用者様の日頃の様子を伝え、アドバイス等を受け往診に活用している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を提供したり、お見舞いにて状況を確認させて頂き、早期退院に向け病院関係者と連携を取っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所で出来る事を家族様に十分に説明し、家族様、かかりつけ医、職員で話し合い方針を決めている。	重度化や終末期の対応は、状況により本人・家族と話し合い、事業所内で検討して進めている。終末期については、医療機関との連携で、医師の指示のもとケアを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に関するマニュアルがあり、全体会議で事故から発生までのフローチャートの確認をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をいただき、避難訓練を実施している。日頃より避難方法を意識したケアを行っている。運営推進会議において、地域の人への協力をお願いしている。	年2回大掛りな避難訓練を消防署や近隣の方の協力や支援を受けながら実施している。夜間想定も実施しており、年間3～4回の訓練を行っている。	隣近所や消防署などの協力を得ながら避難訓練を行っているが、運営推進会議において、地域の人への協力をお願いしており、地域の関わりを避難訓練を通じて、積極的に構築されることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プランバシーや誇りを大切に、否定する様な言葉は使わず、一人ひとりに合った言葉かけに気をつけている。	年1回全体会議で、ユニット毎にロールプレイングなどの接遇の研修を行っている。また、毎月、人格の尊重や配慮についての勉強会を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様、表情や態度から思いをくみ取っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースにならない様、一人ひとりのペースを大切に、その人らしく暮らして頂ける様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・服装を気づかい、その人らしい装いが出来る様支援して、月二回理美容が来所し希望にそった内容にして頂ける様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせて、食べやすい大きさに切ったり、盛り付けを工夫している。また、体調に合わせて片付け等も一緒に行っている。	半製品を栄養管理士が居る委託業者に依頼しており、事業所の給食会議の意見をメニューに反映している。各行事食も特別メニューが豊富で、一人一人に合わせた楽しい食事である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は栄養士が献立を作っており、食事量・水分量は記録し、少ない方には別メニューにしたり、好みの飲み物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを実施し、口の中に食物残菜がないように注意し、状況に応じて舌ブラシ・うがい薬を使用するなどの支援をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行い、トイレで排泄出来るよう支援している。立位、座位が難しい利用者様でもスタッフ2人で対応する様に支援を行っている。	毎日の習慣を記録し、それに基づいて排泄パターンを把握して、職員がそれぞれトイレでの排泄を誘導し、自立の支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量を把握し、水分を多くとっていただいたり、トイレ利用時には腹部のマッサージをする等の対応を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良等で変更になる事もあるが、希望通り入浴して頂ける様努めている。	3日に1回は入浴の予定を立てているが、希望者へは、随時入浴できるような体制に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ、休息が取れる様支援し、消灯の時間は設けていない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用を理解し、症状の変化があった際に医師・看護師に相談し、服薬介助は職員同士で確認して行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いをして頂いたり、趣味が出来る環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様が付き添う形や、職員の人数の都合がつけば、可能な限り買い物・散歩など出掛けている。また、行事等で外出の機会がある。	利用者のゴミ出しついでに散歩を職員が同行し、町内会の商店へ買い物や花畑のある家への散歩など日常的な外出支援を行っている。年1回のいちご狩りや家族ぐるみのクリスマス会など多彩な行事で利用者の喜びを支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族様の希望に合わせ事務所で預かりしている方、ご自身で持っている方がいる。出し入れは自由で買い物時に使用している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる様伝えており、環境も作っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを心がけ、行事等の写真等も貼っている。また、温度・湿度にも気をつけている。	手作りカレンダーや季節の飾り物(冬:雪だるま、春:春の花、夏:夏の花など)をドアに飾り付けるなど、フロアごとに装飾が異なり、似顔絵や利用者の思い出の写真を食堂に掲示するなど居心地のよい住まいに工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で居室を行き来したり、食席・ソファの位置を工夫したりし、思い思い自由に過ごせる様心がけている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等を持って来て頂き、また、好みの物を置き心地良く過ごして頂けるような環境作りを心がけている。	入居時に馴染みのものや使い慣れた家具や仏壇を持参頂いて居心地のよい住まいを心掛けている。また、盛夏時は、熱中症予防に氷枕や風通しをよくするなど細目に配慮して、過ごしやすい環境に努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置し、居室・トイレ・食堂・風呂等はわかりやすい様表示をしている。		